

学校と博物館の連携を目指して

内田 悟



はじめに

博学連携とは、博物館と学校が相互に連携・協力して子どもたちの教育に当たる取組のことです。博物館には、貴重な教育資源が豊富にあります。また、専門的知識をもった学芸員もいます。この博物館の教育的価値を学校の教育現場で有効に活用することが博学連携の大きな目的の一つです。言い換えれば、博物館を「もう一つの学校」としてとらえ、子どもたちの学びの場や内容を広げることができます。結果的に、高い教育効果を期待することができます。さらに、博物館の活用の仕方を学んだ子どもたちは、将来様々な社会教育施設を利用し、生涯にわたって学び続ける意欲や態度の基礎を養うことができます。「餅は餅屋」のように自然の博物館の地質・生物の専門性を生かしながら子どもたちの教育に当たることは、博物館の使命です。

博物館の専門性をいかした取組

通常、学校から博物館に来館していただくことは十分教育的な利用方法と言えます。しかし、立地条件や時期的な理由で来館が困難な学校も多くあります。その場合「出前授業」を行い博物館の専門性をいかした教育活動を展開します。実施回数は年々増加の傾向にあります。授業前には、必ず学校の先生と打合せの時間を設けて互いに協力しながら連携を図っています。

また、毎年、地元の中학생たちが職場体験で博物館を利用しています。学芸員の仕事に興味をもち、普段見ることができない博物館のバックヤードでの仕事やお客様対応などを体験しています。



動物の標本の整理をする中学生

博学連携で大きな役割を担うのが教職員研修です。先生方を対象に、体験や講義を通して当館の事業を理解していただき、博物館を積極的に活用してもらいます。特に、学芸員が講師となって新任の小中学校の先生方に対して実施している研修では、岩畳を散策しながら地質・生物の観察実習を行います。受講された先生方からも大変好評をいただいています。研修内容に対して「すぐに授業に使える」といった感想を持っていただけた先生方が多く、確かな手ごたえをつかんでいます。さらに、夏の「教員のための博物館の日」による自然史講座も県内の博物館に興味のある教職員の方々を対象に3年前から実施してきました。



学芸員から岩畳について説明を受ける新任の先生方



学芸員から標本づくりの説明を受ける高校の先生方

今後も自然の博物館では、教育機関と協力して双方がそれぞれのよさを発揮できるように、博学連携を進めていきます。

(うちだ さとる・担当課長)